

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272600289		
法人名	社会福祉法人八千代会		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地 (電話番号)	〒039-5201 青森県むつ市川内町字獅子畑128番地4 (電話) 0175-42-3103		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 8月 25日	評価確定日	平成 20年 10月 15日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 1月 4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,400 円	その他の経費(月額)	9,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	61 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一部事務組合下北医療センター国民健康保険川内病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より湯の川温泉方面へ向かう山間部に位置し、前面には川内川が、裏手には於法岳を配した自然豊かな環境にあり、ホーム内から四季折々の風景を楽しむことができる。特別養護老人ホームの併設施設としてグループホームを設置。母体である特別養護老人ホームせせらぎ荘は平成元年より、地元の人でも利用できる温泉場として馴染みの場所となっている。施設内はすべて廊下でつながり、デイやショート利用者が自由に行き来できる解放された空間となっている。施設全体での園内研修、勉強会も頻回に行われ、向上心をもって、さまざまな取り組みを行っている。職員は「笑顔で元気」をモットーに普通の暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題となった「重度化や終末期に向けた方針」については、延命に対する確認書を作成し、本人、家族、事業所が話し合いをもち対応方針の共有を図るよう取り組みが行われている。また、指摘はなかったが避難訓練時に車椅子や歩行器の方もスムーズに移動できるよう避難経路を芝生からコンクリートへの整備について検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員が評価の意義を理解し自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はスタッフ会議や運営推進会議で報告し、改善に向けた具体的な検討をし、施設内に掲示し実践している。
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に1度の定期開催の他、福祉関係での事故が報告された際にも開催されている。ホームでの日々の取り組みや外部評価の結果、改善状況が報告され、委員からの助言や意見をうけながら、サービスの質の向上につなげている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	家族面会時には話しやすい雰囲気となるよう努めている。これまでに苦情の事例はないが、苦情対応マニュアルの整備、意見箱の設置、家族会の開催など意見や苦情を出せる機会を設けている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の祭りやイベントに積極的に参加したり、学生ボランティアや慰問の受け入れ、公衆温泉の開放等、地域との交流は多い。近隣の方々や家族が畑の作物の差し入を届けてくれたり、認知症の相談にきたりや地域住民との信頼関係を大切にしている。避難訓練時には地元消防団や地域の協力がある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としてサービスの質の大切さを考え、基本となる全国認知症グループホーム協会倫理綱領を取り入れ、地域の中で自分らしく生活し支えていく事ができる理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示されており、職員は出勤時に黙読する習慣となっている。また、スタッフ会議の都度話し合いがもたれ、理念の共有を図っている。10項目を自分の言葉に置き換え自らの行動の規範とし日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の祭りやイベントに積極的に参加したり、学生ボランティアや慰問の受け入れ等、地域との交流は多い。近隣の方々や家族が畑の作物の差し入れを届けてくれたり、認知症の相談にきたりと地域住民との信頼関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員が評価の意義を理解し自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はスタッフ会議および運営推進会議で報告し、話し合いをもち改善に向けた取り組みを実践している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では自己評価や検討事項の結果を報告し、意見や助言をもらいサービスの向上に活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市政だよりに広報をはさんでもらったり、課題解決のための相談など行い、市の理解や支援が得られるよう取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修で学んだことを、園内で勉強会を開催し職員に理解してもらっている。今まで利用した方はいないが、必要時に支援できる体制となっている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修への参加や勉強会を開催し理解を深めている。マニュアルも作成され、あってはならないことを意識し取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分な説明を行い、重度化や見取りの対応を確認している。退居時は受け入れ先を確保してから退居してもらっている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月金銭管理の報告書を郵送しているため、近況報告を添えている。面会時にケース記録を見ていただいたり、日常の様子を伝えたりし、健康状態に変化あるときはその都度報告している。また、年4回広報誌の発行を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時には話しやすい雰囲気心がけている。苦情対応マニュアルの整備、家族会の開催など意見や苦情を出せる機会を設けている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設施設はすべて自由に行き来ができ、普段から交流があり顔馴染みとなっている。職員の異動はあるが、引継ぎ期間を十分に取り関係作りに配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、園内研修の他、スタッフ全員で行う学習会も開催。全職員と一緒に学ぶ機会を作っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームの見学や、研修会への参加により交流する機会を持ち、意見、情報交換を行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に見学に来てもらったり、デイサービス利用時に職員が出向き顔馴染みになれるよう努めている。併設施設との行き来は自由であるため、デイサービスやショート利用の際はお茶を飲みに来てもらったりしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>手助けする側、される側と区別することなく、野菜の育て方や調理方法を利用者から教えてもらうなど、お互いが協力しながら和やかな生活ができるよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を理解し受け入れている。希望の把握が困難な方でも、日々の行動や表情を汲み取り判断したり、家族や知人からの聞き取りにより把握に努め、本人にとって最良の支援となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、知人からの聞き取りをもとに、月に1回スタッフ会議で話し合いを持ち、本人や家族の意向に添った個別の介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回は見直しをしている。また、担当者がアセスメントを実施し毎月のスタッフ会議で状況に変化がないか確認しケアに反映させ、状態変化時には家族に連絡をとりながら随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援や墓参り、宿泊など、その時々々の本人や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他に、希望する医療機関で受診ができるよう支援している。基本的には家族対応となっているが、家族の都合がつかないときには職員が代行し報告している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について介護計画見直し時に話し合いを行っている。延命治療のあり方や遠方にいる家族が来るまでの対応についても確認書を作成している。また、本人と家族の希望を確認し、医療関係者と連携をとりながら対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念として掲げられている10の権利と10の倫理綱領を全スタッフが理解しケアに活かしている。プライバシーを損ねない声かけ、個人情報の保護に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で自分の好きな作業を選んでいただき、継続できるよう支援している。希望を優先し、無理強いせず利用者のペースに合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は弁当を持参し、同じテーブルにつき会話を楽しみながら食べている。一緒に育てた野菜や家族から差し入れられた野菜が食卓に並び、食事がいっそう楽しいものとなっている。調理や盛り付け、後片付けにはそれぞれ役割を持っていただき職員と一緒にしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>併設施設に数箇所温泉浴場があり、希望に応じて入浴できる。入浴日は決めておらず、夏期には夜間浴も行うなど利用者が好きな時間に入浴ができるよう支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりが得意分野を活かせるよう作業の場を提供している。食事作りや園芸等、経験や知識を発揮できるよう支援し、感謝の言葉を伝えている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近所への散歩は希望時に対応している。地域行事に出かけたり、墓参りがしたい、自分の畑が見たい等の要望にも応え、馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会に参加し認識の共有を図り、マニュアルも整備されている。グループホームを家庭として捉え、身体拘束について学び身体拘束をしない取り組みをしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず外に出て行く利用者には同行したり、見守りを行ったりして安全面に配慮している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力のもと最低でも年2回実施している。併設職員、地域消防団、近隣の集落の方々が協力できる体制を整え、訓練に参加している。グループホーム独自の自主訓練も行っている。避難場所までの経路を安全に移動できるよう検討中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時には個別に希望を聞き、量も一人一人に合わせた盛り付けにしている。食事摂取量、水分摂取量は個別に記録し把握している。残渣、嗜好調査定期的に行い、併設施設の栄養士よりアドバイスをもらっている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	園内研修にて勉強会を実施しマニュアルを作成している。情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。マニュアルの見直しを行っており、よりよいマニュアルとなるよう検討されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースが広く食事の場、くつろぎの場がゆったりと過ごせるよう家具が設置されている。カレンダーの位置も入居者に合わせ適度な高さに配慮され、花や掲示物は季節を感じられるよう工夫されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具を利用するよう勧めている。外出時に使い慣れた小物等を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるよう支援している。</p>		

 は、重点項目。